

宮城県経済の動き

総括判断

最近の県内景況をみると、経済活動は総じて高めの水準で推移しているものの、震災復興需要の反動などから回復の動きが鈍化している。

概況

生産は足元弱含んでいる。需要面の動きをみると、公共投資は高水準であるが、震災復旧工事を中心に減少基調となっている。住宅投資はなお高めの水準ながら、震災に伴う建替需要の反動などにより基調としては減少している。個人消費はこのところ一部に動きがあるものの、総じて横ばい圏内で推移している。雇用情勢は改善に足踏みがうかがわれる一方、需給のミスマッチなどから一部では人手不足が企業経営の重しとなっている。

この間、企業の景況感、総じて停滞している。

今月のポイント

2019年の前半を終えた県内経済は、生産活動が海外の政治・経済情勢に翻弄されて水準を下げ、設備投資も弱含む動きがみられるなど企業部門が苦戦を強いられた一方、安定した雇用・物価情勢のもと家電の買替や改元に伴う超大型連休などにより家計部門が底堅く推移しました。

当月はいずれも一服しましたが、今後、消費増税までは耐久消費財の駆け込み需要が見込まれる一方、引続き米中通商問題など海外情勢に起因する生産・輸出の停滞など、強弱入り乱れた展開が予想されます。

(参考) 県内景況判断の推移

	2019年6月	7月	8月
総括判断	震災復興需要の反動などから、回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高めの水準で推移している (据え置き)	震災復興需要の反動などから、回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高めの水準で推移している (据え置き)	経済活動は総じて高めの水準で推移しているものの、震災復興需要の反動などから回復の動きが鈍化している (下方修正)
生産	足元弱含んでいる	足元弱含んでいる	足元弱含んでいる
個人消費	概ね横ばい圏内の動きとなっている	概ね横ばい圏内の動きとなっている	このところ一部に動きがあるものの、総じて横ばい圏内で推移している
住宅投資	一部で上振れしているが、建替需要の反動などにより基調としては減少している	一部で上振れしているが、建替需要の反動などにより基調としては減少している	なお高めの水準ながら、建替需要の反動などにより基調としては減少している
公共投資	震災復旧工事を中心に減少基調となっているが、なお高水準で推移している	震災復旧工事を中心に減少基調となっているが、なお高水準で推移している	高水準であるが、震災復旧工事を中心に減少基調となっている
雇用情勢	総じて改善している一方、一部で人手不足が企業経営の重しとなっている	総じて改善している一方、一部で人手不足が企業経営の重しとなっている	改善に足踏みがうかがわれる一方、需給のミスマッチなどから一部では人手不足が企業経営の重しとなっている
企業の景況感	(2018年10~12月) 持ち直しの動きが鈍化している	(2019年1~3月) 総じて弱めの動きとなっている	(4~6月) 総じて停滞している

注) 下線は前月(回)からの変更箇所

宮城県の経済情勢に関するより詳細な情報については、機関誌「FLAG」および「77R&C会員情報サイト」にて、ご覧になることができます。